

08. 名詞の性数格と定冠詞

ドイツ語の名詞はいつでも大文字で書き始めるということはすでに学びましたが、さらに日本語と違って点があります。それはどの名詞にも「性」や「格」がある、ということです。

1. 名詞の性とは何か

自然界には男と女、雄と雌の区別がありますが、ヨーロッパの言語では自然界だけではなくあらゆるものに文法上の「男性」「女性」といった性の区別があります。

ドイツ語の名詞は「男性」と「女性」だけではなく、さらにどちらにも分類できないものをあらわすために「中性」という性までそなえています。そしてそれぞれの性は次のように m. f. n. といった省略形であらわします。

	ドイツ語	省略形	英語
男性	Maskulin	m.	male
女性	Feminin	f.	female
中性	Neutral	n.	neutral

おもに人間や生き物は、その意味から容易に性がわかる「自然界の性」に従います。

m.	Mann	<i>man</i>	Vater	<i>father</i>
f.	Frau	<i>woman</i>	Mutter	<i>mother</i>
n.	Lebewesen	<i>creature</i>	Kind	<i>child</i>

しかし、ほとんどのものはその意味からは推察できないいわば「文法上の性」を持っています。

m.	Baum	<i>tree</i>	Mond	<i>moon</i>
f.	Blume	<i>flower</i>	Sonne	<i>sun</i>
n.	Gras	<i>grass</i>	Land	<i>land</i>

こうした名詞の性はどのようにして決まってきたのかはわかりませんが、その名詞のイメージや他の名詞からの類推で決まったり、一定の語尾で終わるものはいつも同じ性の名詞と見なされることもあります。

2. 名詞の格とは何か

日本語では、文章のなかでどの名詞が主語になりどれが目的語になるか、ということは主として「助詞」の助けを借りてあらわしますが、ヨーロッパの言語はそうした助詞などは使わずに、名詞や代名詞に「格」という概念を当てはめています。例えば英語は3つの格を持っており、それぞれ主格、所有格、目的格と名づけていることはよく知っているでしょう。それにたいしてドイツ語には4つの格があり、それぞれ次のようになっています。

	意味	文中での役割	文法上の呼称	ドイツ語	省略形
1格	…が、…は	主語になるもの	主格	Nominativ	nom.
2格	…の	所有をあらわすもの	所有格	Genitiv	gen.
3格	…に	間接目的語になるもの	間接目的格	Dativ	dat.
4格	…を	直接目的語になるもの	直接目的格	Akkusativ	acc.

3. 名詞の数とは何か

さらに、はっきりと名詞の単数と複数を区別する点も日本語より厳密です。日本語には明確な複数概念がないため、例えば「本屋で本を買う」という表現では本が1冊なのかどうかはわかりませんが、ヨーロッパの言語でははっきりとした単数と複数の違いがあります。英語では一般に名詞の最後に *-s* をつけると複数形になりますが、これはフランス語の方法にならったものです。ドイツ語の複数形はあとで学びますが、こうした方法よりもう少し複雑な作りかたをします。

4. 定冠詞の特徴とその変化

ヨーロッパの言語では、名詞はそのままの形ではその性数格をはっきりとあらわしにくいので、ほとんどの言葉は名詞の前に冠詞をつけることでそれらを区別します。しかし英語は早い時代に性を失い、また語順を厳密にすることで格もはっきりとあらわさなくなりましたが、ドイツ語はいまでも性や格を冠詞の変化で明確にあらわそうとしています。

例えば「その」という意味を持つドイツ語の定冠詞、つまり英語の *the* に相当するものを男性名詞につけて変化させると次のように変化をします。

- | | |
|--|---|
| 1. Der Mann ist groß. | <i>The man is tall.</i> |
| 2. Ich bin <u>der Freund des Manns</u> . | <i>I am <u>the friend of the man</u>.</i> |
| 3. Der Wagen gehört dem Mann . | <i>The car belongs to the man.</i> |
| 4. Peter ehrt den Mann . | <i>Peter respects the man.</i> |

最も英語と異なる点は「…の」という所有をあらわす2格はかならずうしろから前の名詞を修飾する、ということです。これはちょうど英語の前置詞句で *of* をもちいた場合と同じかたちになります。

それぞれ「その男は」「その男の」「その男に」「その男を」と訳すのは、ドイツ語の場合は定冠詞が変化することではっきりとわかりますが、英語の場合は主として語順でしかわかりません。ドイツ語は例えば4. の主語と目的語を逆にして *Den Mann ehrt Peter.* としても *den Mann* は目的語だということがはっきりしていますからいっこうにかまいませんし、意味そのものも変わりません。しかし英語で *The man respects Peter.* とするとまったく意味が違ってしまうため、この語順は不可能なのです。

定冠詞の性数格の変化

m.	f.	n.	pl.
1. der Vater	die Mutter	das Kind	die Eltern
2. des Vaters	der Mutter	des Kindes	der Eltern
3. dem Vater	der Mutter	dem Kind	den Eltern
4. den Vater	die Mutter	das Kind	die Eltern
<i>the father</i>	<i>the mother</i>	<i>the child</i>	<i>the parents</i>

気をつけることとして、男性名詞と中性名詞では2格で名詞のあとに *-s* や *-es* という語尾をつけることです。これは英語がどの名詞にも所有格においては同様に *-s* をつけることと同じ考え方ですが、ドイツ語では女性名詞と複数形ではそれをつけません。

2格で名詞のあとに *-s* や *-es* のどちらをつけるかは英語の複数形の場合と同じで、およそ発音がしやすくなるようにすればよいのです。これはすでに学んだ動詞の現在人称変化とまったく同様ですか

ら、以下の例を参考にしてください。ただし2音節以上の名詞では一般に -s だけをつける傾向があります。

- a) 名詞が歯音 (-s, -ss, -ß, -sch, -tz, -z, -x など) で終わるもの
-es を(2音節以上でも)つける 例) das Haus ⇒ des Hauses
- b) 名詞が -er, -el, -en, -em など終わるもの
-s のみをつける 例) der Vater ⇒ des Vaters
- c) 1音節、あるいはそれ以外の名詞
-s あるいは -es のどちらでもよい

19世紀頃までは男性名詞と中性名詞には2格に-s や -es をつけるだけでなく3格にも -e をつけていましたが、現代ではこの語尾は消滅しました。しかし慣用句などでは古い形が残っているため、わずかにいまでももちいられます。

Ich gehe nach Hause.
Bist du zu Hause?

I go (to) home.
Are you at home?

この場合の Hause は冠詞がありませんが、中性名詞 Haus の3格で、nach Hause 「家へ」と gehen 「行く」、あるいは zu Hause 「家で」と英語の be 動詞に相当する sein 「ある」という動詞で熟語を作り、「帰宅する」あるいは「在宅している」という慣用句としてもちいられている例です。しかし現代ドイツ語ではこれを nach Haus や zu Haus としてもかまいません。

注意したいことは、ドイツ語では単数では性の区別をしますが、複数ではそれをしません。英語でも単数では「he 彼、she 彼女、it それ」といういわば性の区別はありますが、複数になればすべて「they 彼ら」というように性の区別はしていないことを思い出してください。

名詞はそのかたちを見ただけではその性がわかりませんから、辞書を調べなくてはなりません。辞書で名詞を調べると

Vater	[ファーター]	m. -s, Väter	「父」
Mutter	[ムッター]	f. -, Mütter	「母」
Kind	[キント]	n. -[e]s, Kinder	「子供」

などと記してあります。普通は見出し語の次には発音がカタカナや発音記号で記してあり、その次に性、2格の語尾、複数形、最後に日本語の意味の順に書いてあります。

ここに挙げた例でいうと「父」というドイツ語は男性名詞 (m.) であり、その2格には Vater が -er で終わっているために -s のみをつけて Vaters とし、複数形は Väter というかたちであることがわかります。同様に「母」は女性名詞 (f.) であり、その2格にはなにも語尾をつけず、複数形は Mütter というかたちとなり、「子供」は中性名詞 (n.) で、その2格は Kindes あるいは Kinds のいずれでもよく、複数形は Kinder というかたちであることがわかります。

それぞれの名詞の性は名詞を覚える際に、der Vater, die Mutter, das Kind というように必ず定冠詞をつけて発音しながら覚えなくてはなりません。しかし2格の語尾はドイツ語の発音に慣れてくればほとんど自然に -s かあるいは -es のどちらかが相応しいかがわかるものです。